

様式2 令和4年度 清瀬市立清瀬第七小学校 学校評価表							
学校教育目標							
○健康で強い子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子			【育成を目指す資質・能力】 ○健康で強い子…すすんで健康保持増進に努める意欲、基礎的な運動の技能、健康についての知識 ○思いやりのある子…他者の気持ちを理解する力、共感できる力、他者との違いを認める力 ○よく考える子…基礎的な知識・技能、論理的思考力、問題発見・解決能力、自分の思いや考えを豊かに表現する力				
目指す学校像(ビジョン)		Challenge！七小！ 教育活動の「質」を究める。					
【目指す学校像】	向学心あふれる学校 保護者、地域と力を合わせて子供を育てる学校						
【目指す児童像】	互いに認め合い、支え合い、高め合う児童						
【目指す教師像】	向上心をもち、自分の指導に誇りをもてる教師		【特色ある教育活動】 ◎学校図書館を活用した問題解決能力の育成…調べ学習室の充実と活用、タブレット端末などICT機器の活用促進 ○障害者理解の促進…通常学級と特別支援学級との交流学習、特別支援教室についての情報発信				
前年度までの学校経営上の成果と課題			【成果】○授業改善による児童の学習に対する満足度 ○新しい生活様式の定着○学校ホームページによる情報発信と閲覧の定着 ○学校支援本部(ななサボ)と連携した地域素材・人材を生かした活動の充実				
【課題】○タブレット端末の活用の一層の促進(問題解決能力及び情報活用能力の育成)○挨拶の励行 ○体育授業、体力向上の取り組みの一層の充実(体力向上) ○特別支援教育に対する保護者理解の更なる向上及びアセスの更なる活用							
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価		次年度以降の改善方策	
		評価 取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価		学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	全員研究授業、授業改善推進プランの作成などの取組を通して授業改善を行い、児童の学習に対する満足度を高める。			学力調査の結果を基に、授業改善推進プランを作成し、授業改善に取り組んできた。また、校内研究では「情報活用能力を育てる～図書館資料の活用を通して～」という研究主題をたてて全教員が研究授業を行い、授業改善を行ってきた。その結果、85%の児童が学ぶことの喜びや楽しさを感じている。今後も児童が意欲的に学ぶことができるよう授業改善への取組を継続していく。		○全校職員が研究授業を行い、授業改善を行ったことで、子供たちの授業の満足度を高めることができた。特別支援学級の授業研究で、特別支援教育の視点で理解が深まり、通常学級での授業改善に繋がった。次年度は、分科会による授業提案を中心に実施し、情報活用能力の育成を図っていく。全教員の授業観察は授業時間をカットせずに、研究とは異なる形で継続する。 ○体験授業は、ゲストティーチャー授業も含め、感染症対策を図りながら、内容、回数とも充実させていく。 ○学校図書館は、図書支援員や「ななサボ」のボランティアが中心となって、環境を整えていただいている。決められた図書館の時間だけでなく、図書館資料を採しに行くことは行っている。令和5年度は、タブレットも併用しながら、調べた結果を整理・発表することでさらに理解を深め、主体的に学ぶための取組を継続する。	
	学校図書館や市立図書館の蔵書、タブレット端末などのICT機器を活用した授業を行う。	1		昨年度は、ICT機器の活用を中心に問題発見・解決能力や情報活用能力の育成を行ってきた。今年度は図書資料を含めた学校図書館を活用した授業改善を行うことで、より理解が高まり、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。一方、教員は学校図書館を活用がまだまだ不十分であると考えている。次年度も今年度の成果を生かし、課題解決できるよう、学校図書館を活用した授業を行っていく。		○調べ学習で必要な時には、数十冊の本を市立図書館から数週間借り、充実させることは出来る。各教科の年間指導計画に基づき、市立図書館から計画的に必要な図書を借り、活用することで、学習での図書館資料活用を進めていく。 ○図書・タブレットの使用については、学習課題に応じて必要なものを自分で選択できるよう指導していく。	
豊かな心の育成	登下校時のあいさつ励行や来客への会釈など、継続的な生活指導の実践を行う。			9割以上の教員が挨拶に関する指導を行っている」と回答しているのに対し、7割の児童が「すすんで挨拶ができています。」と答えている。挨拶の大切さには理解しているものの行動変容にはつなげていない実感が伺える。今後も挨拶や生活指導について児童が主体的に取り組めるような指導の工夫を行っていききたい。 ・基本的にあいさつ励行、会釈の指導はこのまま継続して行っていけば、子どもの発達段階に応じて成果は出ると思います。 ・教員と子供達の回答に少し差があります。今はSNS上で会話することが増え、人と対話する事に苦手意識が出ている様に見えます。人と関わる機会(対話)を増やしていただき、挨拶もすすんでできる様に取り組んでいただきたいと思います。 ・あいさつ出来る子と出来ない子の差が大きいと感じます。日常的な家庭生活の中での習慣が大きく影響すると思います。 ・あいさつ励行や来客の方への会釈は普段から親が教えることです。保護者も子どもに手本を見せなければいけないと感じました。昔は大人が児童にあいさつしていました。近年見られないのも淋しいですね。例えば信号機で見守ってくれている方からのあいさつだけでも違ってくるのでは？保護者があいさつしないとしてくれません。 ・代表委員会の「あいさつ週間」は、生徒たちにもたての学年の刺激になっていると思う。回数が多いといいなと思う。あいさつをした時って気持ちがいい。周りを元気にする価値があることを伝える工夫をしてほしい。 ・あいさつはコミュニケーションや人間関係の形成のうえで重要と子どもが知って育つことが大事であり、実践に対し子どもに成果を求めるのは難しいと思う。		○挨拶の大切さについては命の週間やふれあい月間などで重点的に指導することで児童の意識変容につながる。学校関係者評価を踏まえ、教職員による挨拶指導を行うとともに、代表委員会の「あいさつ運動」や保護者への励行啓発を進め、大人が手本となるべく挨拶の実践に引き続き取り組んでいく。	
	道徳授業(週1時間、体験的活動(学期3回以上)行い、人権や人とのふれあいに対する意識を高めていく。	1	1	年間指導計画に位置付けられた道徳授業は計画的に行われているものの、人権に関する取り組みに関して保護者の評価は40%に留まり、教職員も人権尊重の精神を培う教育活動の実践については低い数値だった。豊かな心の育成は道徳授業や体験的活動のみならず、学級経営や特別活動、行事などでも培われる。カリキュラムマネジメントを活用した取り組みが今後必要となる。 ・「1」は厳しすぎる評価、コロナの影響で行えていない体験的活動にも工夫しておられると感じます。 ・人権問題に関することは難しい内容が多いのでうまく子供達に伝わる様、取組んでいただきたいと思います。 ・コロナ禍での人との関わりが難しく、子どもの心が荒れていると思います。大人の精神状態も安定しないことが子どもに影響していると感じます。 ・ハンセン病のことについて自宅でも子供から話がありました。とても興味があり様々なことを感じたようでした。道徳で触れたことについて、保護者も可能な限りサポートすることが必要だと感じています。 ・教室での友だち関係や先生との関係、親御さんとの家での関係など、道徳ということばがイマイチ身近なようでわかりづらい感じがするので、今更ですが身近なことばで取り組むとどうなるのかなと思ったりする。 ・人権については世界でいう人権と日本人権のイメージの乖離が大きい。日本の先生自体も本来の人権について学ぶ必要があるのでは		○人権尊重の精神を培う教育について、教師も学べる機会を整える。ゲストティーチャーによる様々な授業が、人権尊重に繋がっている。また、日常や授業、学校行事のなかで教師による指導を積み重ねていくことの大切さを意識することも必要である。 ○令和5年度は、学校での授業を保護者に丁寧に伝えることで、児童が家庭でも話題にできるようにする。	
健やかな体の育成	朝遊びやロング昼休みの活用、出前授業などを通して、運動に対する意識を高め、体力の向上を図る。			週1回の朝遊びの時間も定着してきており、校庭では外遊びを楽しむ児童の様子がよく見られる。しかし、体力テストの結果を見てもコロナ禍前までの値に達していない。休み時間のタブレット利用については学校内でのルールはまだ確立していないので、児童とともに話し合いながら「健やかな体をつくるための休み時間の過ごし方」について決めていきたい。 ・体力テストの結果はある意味しかたがない面もあり、今後の体力の向上への取組に期待しております。 ・コロナ禍になってから、外で遊ぶ機会が少なくなり家で過ごす時間がとても多くなっているので、学校の方でもっと外で遊ぶ時間を作ってほしいです。 ・バランス良く外で遊ぶ、タブレット・図書館の活用をしていただきたいです。体を動かすことで友達との関わりも身につくと感じます。 ・うちの子ども外遊びは好きではありませんが、学校の中だけでも体を動かす機会を増やしてほしいと感じていました。(小1の娘は動くのが好きですか)1年生は体力カードをもとに自宅でストレッチしています。 ・なぜ運動やスポーツが大事か生き生きとくいで必要だから成績評価につながる。運動やスポーツを観ること応援したりすることの大事さや、ルールや技術を知り、わくわくや感動を味わう豊かな心の育みもあれば体を動かす休み時間にも理解度があがるのかなと思う。 ・コロナ後、子どもが1日で身体を動かす時間が休み時間しかないという日を過ごす子も増えたのでは。大変かと思うが休み時間に身体を動かすことの励行を続けてほしい。		○感染症や生活スタイルの変化で、放課後遊びでの体を動かす時間の確保が難しくなっていることを踏まえ、学校生活の中で、意図的に体を動かす時間の確保に努める。 ○体力向上週間やゲストティーチャーによるかけっこ教室やラグビー・サッカー教室での児童の満足感あふれる表情を、体育の授業、朝遊び集会、休み時間等でもみられるよう工夫・改善を図っていく。	
	早寝早起き・歯磨き・食事・衛生・新しい生活様式といった健康や食に関する指導を、年間10回以上行う。	1		職員による取組指標は控えめの評価であったことに対し、児童・保護者からは概ね評価していた。健康な生活習慣育成への取り組みに関しては、家庭からの提出が芳しくなく、今後は家庭への更なる協力を得られるよう健康教育への理解と協力を発信していることが課題となる。 ・書くのは3回目「評価が厳し過ぎ」ますが、先生方の姿勢は子どもたちにも保護者の皆さんにも届いていると思います。 ・早寝早起きについては習慣なので、家での声かけや対応が重要だと思いますが、学校での取組を続けてほしいと思います。 ・学校だけで補える問題ではなく、家庭の基本的な生活が大きいと思います。保護者の全面的な協力が必要と思います。 ・共働き家庭が多く、児童より先に出かけてしまう家庭も少なくないと思います。朝の歯磨きの確認ができないうのが現実です。 ・歯みがき指導が表彰されていてすごいと思う。家庭での新しい生活様式をはじめ健康教育は本当にむずかしく大変だと思うが、栄養・すいみん・運動・勉強を元気でいればこそその心のごさげんを意識して協力しあってほしい。 ・児童・保護者の評価の「3」が実際に学校経営内でされていたものかと。家庭からの提出が芳しくない理由について知りたい。		○教職員による評価が低い理由として、主幹養護教諭を中心とした取組に、十分に協力できていないという思いがあると思われる。健康な生活習慣育成への取組みは、東京都の取組と比較しても充実している。学校ではこれまでの取組を継続しながら、保護者への働きかけ方についてどのようにすべきか、学校関係者評価の皆様にもご意見をいただき対応を進めていく。	
特別支援教育の充実	通常学級と特別支援学級との交流や共同学習を年5回以上行う。			特別支援学級設置校という特色を生かして、様々な教育活動を通して交流を図ってきた。共に学ぶ場を共有するだけでなく、学習活動のめあて達成に向けて、共に協力し、認め合いながら学習を進められるような共同学習を今後も目指していきたい。 ・交流、共同学習への方向性はそのままに工夫して継続してほしいと思います。 ・左記内容で今後も進めていただきたいと思います。 ・低学年のうちは難しいことでも、学年が上がるにつれて子どもなりに理解しどう関わるかを感じとり行動していると思います。 ・年々人数が増えていく中、良く行えていると感じ感謝しています。しかし、以前のように縦割り班でゲームが出来るようになると良いと感じています。 ・交流が年令が大きくなった時、子どもの心の成長を感じています。ふれ合う機会があることは七小の特徴だと日頃感じています。 ・良い形でのインクルーシブ教育が実践されていると感じる。次年度「学習」についてどう変わっていくか期待したい。		○「七小の子供たちが優しい理由の一つは、特別支援学級併設によるもの」だと考える地域・保護者、教職員が多い。短期間で育てることではないので、引き続き、交流・共同学習の取組を充実させ、継続していく。	
	個別の指導計画の実現に向けた指導を継続するとともに、アセスから読み取れた課題の解決に向けて適切な支援を行う。	1		教育的ニーズは児童一人一人異なっているため、特別支援に対する評価は難しい。「わからぬい」と答えた保護者の割合が17%を超えている。アセスの活用はもちろん、校内委員会やケース検討の継続的な実施、特別な支援方法に関する学習会など児童一人一人に合った支援の推進を今後も行っていく。 ・アセスの導入・活用が軌道に乗ってきたことがうかがえます。保護者に伝わるまでには時間がかかりますが、応援しています。 ・特別支援の児童への対応は本当に1人1人違うので難しいと思うので保護者の意見なども取り入れると良いのではないかと思います。 ・なかなかないかと思いますが、一人の問題を抱えた生徒の存在が大きすぎて先生までも振り回されていると感じます。 ・支援級は1人1人の児童に特徴があるので、良くして頂いていると感じています。コロナの中で実際に目で様子を把握できないのも事実です。少しずつですが、もう少し増えてほしいと感じました。 ・わかならないと思う。アセスが助けになるのかなと思った。先生方の支援がエネルギーがすばらしいと思う。 ・アセスは「1人1人の子が集団を作り、それが各クラスを作っている」指評だと聞き、そうすると把握する教員のメリットは大きいですが、児童保護者へのリターンが少ないのでは。もしくは、アセスについての説明が足りないのではと感じる。		○特別支援に対する評価は難しかった。教師は研修を重ねているが、保護者に向けた働きかけが少ない様子がある。次年度は、特別支援に関する講演会を計画し、保護者の理解を深めるきっかけとするとともに、児童への特別支援啓発授業を行い、インクルーシブ教育に取り組んでいく。 ○アセスの活用が保護者に分かりにくい点については、アセスの性質上仕方ないところもある。アセスの結果を参考にすると、個別指導に生かしながら、今年度以上に保護者会や個人面談の際に、保護者への説明を行っている。	
本校の特色	学校支援本部、円卓会議「松山DX」、NPO法人きよせろぼなど、地域の人材を活用した授業を行う。地域施設を活用した体験的な学びを進める。	1		先生方はもっと地域の施設・人材を活用できると考えて下さるのはすばらしいことです。さらに充実してまいりましょう。 ・まだまだ地域の方達とのふれ合い、学習などは十分ではないと思われます。 ・学校を主に地域と関わり、子ども達が安心してできる場で遊べたり、体験したりできる機会が増えていくと良いと思います。 ・佐渡島からのリモート環境教育とても良い取り組みだと思います。また、松山DXまつりでの和太鼓出演やお店のお手伝い等児童にとってプラスになったと感じています。 ・「松山DX」が発足したことで地域ってつながっているんだと感じます。つながりたくないからつながらないようにするには役員にならないようにするにはと「にげ」たり「さけ」たりしてたい者です。そのような方々が多いと思います。そんな方々代表ですので、よりよりそえる地域のつながりを学びたいと思っています。 ・教員の数値が低いのは、きよせろぼが地域づくりを目的とした団体をいうことが知られていないからでは。松山DX祭りもあくまで七小が会場の地域の祭りであり、参加した人は地域感があるが、教員はノータッチ感が強いので評価が低いのは仕方ないと思う。今後、教員側から地域人材のリクエストがあることを望む。		○今年度は、3学期に地域人材・施設活用が増えた。年度途中から必要性に応じて改善に努めた結果でもある。 ○地域づくりとしての松山DXを、教員・児童・保護者に周知していく必要はある。 ○次年度はコミュニティスクールの七小として、更に地域に開かれた学校の実現に向け働きかけていく。	
	ホームページの更新を毎日(長期休業中を除く)行う。			今年度もほぼ毎日HPの更新を行い、学校の様子を伝えてきた。また、学校便り「七つ星」もリニューアルし、保護者に本校の教育活動について理解をいただいている。次年度はコミュニティスクールになるため、更に内容を充実し、積極的に情報発信を行う。 ・HPも学校便りも最高です。 ・ホームページについては更に見たくなる様な工夫をしていただき充実させていただきたいと思います。 ・定着するまで少し時間がかかるようにおもいますが、HPなど毎日大変な作業の積み重ねにより得られる結果は大きいと思います。 ・とても分かりやすいと感じている一方、HPが見れない保護者にとってはもう少し知りたいのも事実だと感じています。今後も七つ星を楽しみにしています。 ・HP・七つ星だよりと共に「七小の会」「ななサボ」を距離を縮めてもらいたいな、どうしたらいいのかなと考えています。 ・七つ星のリニューアルはすごくいいと思います。せつかつなら表紙になった人からのメッセージも読みたいです。		○学校便りとホームページによる情報発信は、今後も続けていく。学校だよりの表紙の写真の方からのメッセージも記事として取り入れていく。 ○ホームページを見られない保護者のためにも、希望を取り学校便りの配布は続ける。 ○「七小の会」「ななサボ」と保護者・地域の距離が縮まる工夫を今年度出来ていないので、ホームページ・学校便りの改善を図っていく。	